

2023年8月18日

## 調布飛行場における米軍ヘリコプター緊急着陸に関する要請書

防衛大臣 浜田 靖一 様  
東京都知事 小池 百合子 様  
東京都港湾局長 松川 桂子 様  
東京都都市整備局長 谷崎 馨一 様  
三鷹市長 河村 孝 様  
府中市長 高野 律雄 様  
調布市長 長友 貴樹 様

調布飛行場周辺三市議会議員有志\*

本年8月11日、午前10時20分、米軍ヘリコプター(横田基地所属 UH-1)1機が調布飛行場に緊急着陸した。飛行中に機体メンテナンスが必要となり、予防着陸のためダイバートしたとのことである。調布飛行場への米軍ヘリ緊急着陸は、6月15日、横田基地所属 UH-1 ヘリコプター2機が横田基地周辺の視界不良のためダイバートしたことに続き、今年二度目である。いずれも、周辺3市への情報提供に時間を要しており、また情報も限定的である。調布飛行場と米軍横田基地は直線距離で約18km、飛行時間は約10分程度であり、わざわざ調布飛行場への着陸が真に緊急かつ必要だったのか、説明も検証も不十分である。

調布飛行場は、2015年、自家用機が調布市富士見町の住宅地に墜落し市民が犠牲になった事故を契機に、自家用機の分散移転の取り組みが進められてきた。これまでも住宅密集地のなかにある飛行場として、周辺住民への安全や生活環境にも配慮し運営されている。米軍機の飛行場利用は認められていないことはいうまでもなく、たとえ緊急対応とはいえ、今般の度重なる米軍機による飛行場の利用は、新たな事故の危険性が増すこととなり、市民への不安を広げる事態となる。米軍による調布飛行場の利用が既成事実化し、常態化することは断じてあってはならない。

ついては、住民の幸福を図る立場にある自治体議員として、下記事項について、防衛省、東京都、ならびに飛行場周辺自治体である三鷹市、府中市、調布市3市が、確実に取り組むよう要請するものである。

### 記

1. 防衛省および東京都は、米軍に対し、調布飛行場への着陸が繰り返されないよう、十全な機体整備と、厳格な離陸・飛行判断を行うよう要請すること。
2. 防衛省および東京都は、仮に調布飛行場に緊急着陸が行われた場合には、緊急性および必要性が明らかになるだけの具体的事実について米軍に確認し、情報をすみやかに、かつ、詳らかに周辺3市に伝えること。

3. 飛行場周辺3市は、市民の命を守り、不安を解消するため、米軍および防衛省、東京都に再発防止を求め、かつ、米軍機の調布飛行場利用の常態化への懸念を表明すること。

以上

\* 調布飛行場周辺三市議会議員有志

三鷹市議会議員 石井れいこ

野村 羊子

伊沢けい子

大城 美幸

紫野あすか

前田 まい

栗原けんじ

府中市議会議員 竹内 祐子

からさわ地平

奥村さち子

西埜なお美

前川 浩子

調布市議会議員 磯邊 隆

鈴木ほの香

田村ゆう子

木下 安子

岸本 直子

以上